

# 農作物病害虫発生現況情報（6月） 水稻編

## 1 ばか苗病

(1) 6月中旬（6/14～23）の巡回調査（県内148地点）では、13圃場で発生が確認された。発生圃場数は昨年より多かった（表1）。

表1 本田におけるばか苗病発生状況

地域	調査圃場数	発生圃場数	(参考)	
			R2発生圃場数	R1発生圃場数
県中	56	4	0	1
県北	26	3	0	0
県南	54	5	4	0
遠野	12	1	0	0
全県	148	13	4	1

## 2 いもち病

- (1) 基準圃場（北上市成田、無防除）では、葉いもちの発生は確認されていない（6月28日現在、接種日6月22日）。
- (2) 6月上旬の巡回調査では、県南部の4地点において取置苗での発病が確認された（令和3年6月4日発表病害虫防除速報No. 7を参照）。
- (3) 6月中旬の巡回調査では、本田での発生は確認されなかった。

## 3 イネミズゾウムシ

- (1) 基準圃場（北上市成田、無防除）では、5月第5半旬から第6半旬にかけて、食害度の増加が見られた（侵入盛期）（図1）。
- (2) 6月中旬の巡回調査（県内148地点）では、発生圃場率は24.3%（平年27.6%）で平年並であった（図2）。
- (3) 地域別では、岩手、胆江、東磐井、二戸地域で食害程度（中以上）が高かった（図3）。

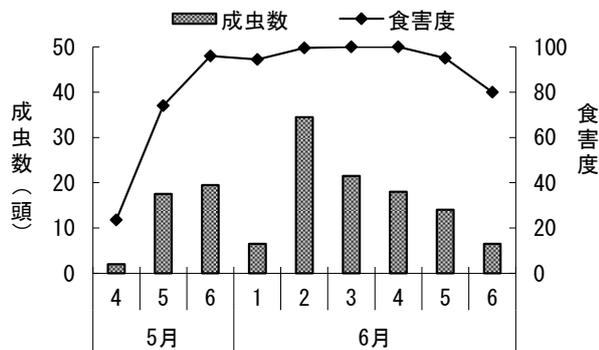


図1 基準圃場におけるイネミズゾウムシ成虫の発生活動と食害度

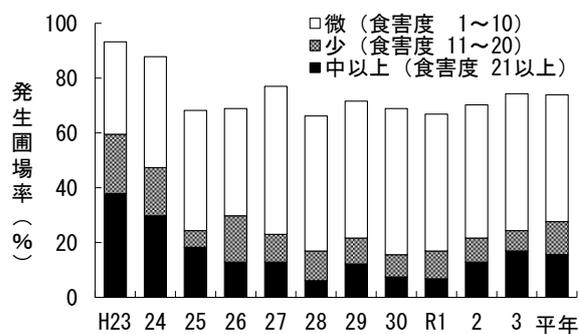


図2 イネミズゾウムシ発生圃場率の年次推移（6月中旬、食害度）

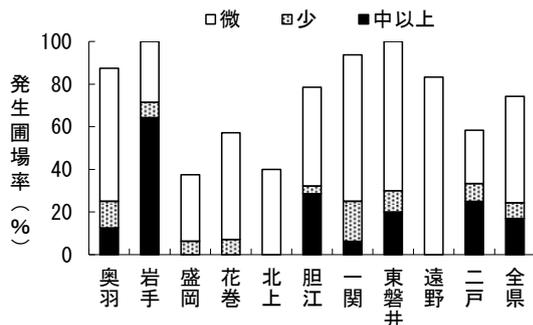


図3 地域別のイネミズゾウムシ発生圃場率（6月中旬、食害度）

#### 4 イネドロオイムシ

(1) 6月中旬の巡回調査では、産卵圃場率は5.4% (平年3.4%) で平年より高かった (図4)。

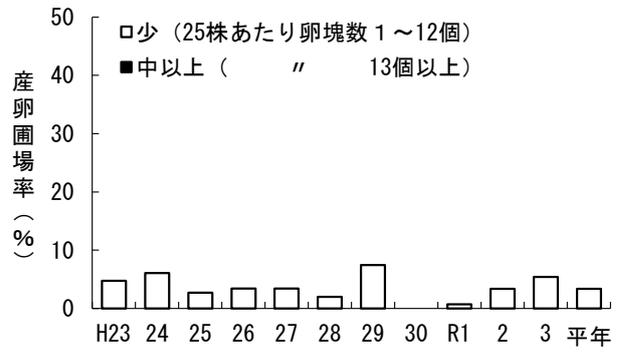


図4 イネドロオイムシ産卵圃場率の年次推移 (6月中旬、程度は25株当たり卵塊数)

#### 5 斑点米カメムシ類

(1) 基準圃場 (北上市成田、イタリアンライグラス) におけるすくい取り調査では、6月第2半旬からアカスジカシカメ成虫の発生が確認された (図5)。

(2) 6月中旬の水田畦畔すくい取り調査 (県内39地点) では、斑点米カメムシ類の発生圃場率は41.0% (平年29.4%) で平年よりやや高かった (図6)。

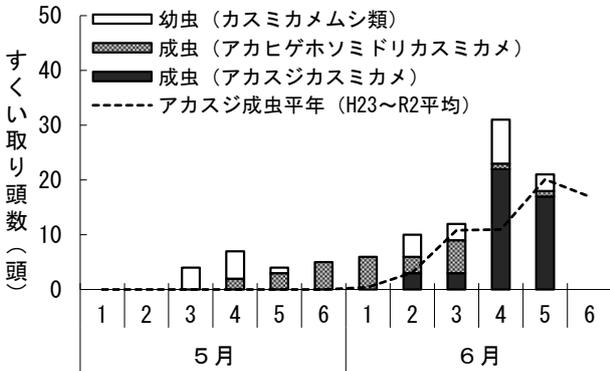


図5 基準圃場 (北上市成田、イタリアンライグラス) における斑点米カメムシ類発消長 (往復20回振)

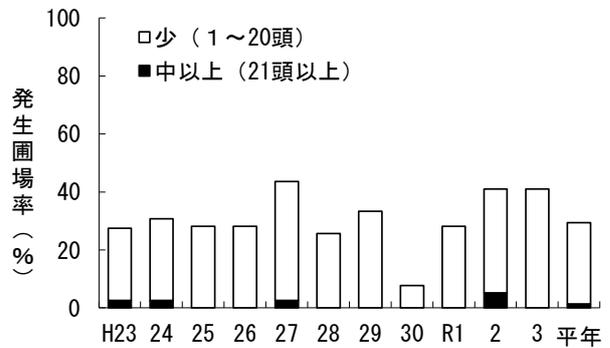


図6 斑点米カメムシ類発生圃場率の年次推移 (水田畦畔、往復20回振)

#### 6 コバネイナゴ

(1) 6月中旬の水田畦畔すくい取り調査 (県内39地点) では、発生圃場率は64.1% (平年50.4%) で平年よりやや高かった (図7)。

#### 7 フタオビコヤガ (イネアオムシ)

(1) 6月中旬の本田すくい取り調査 (県内39地点) では、幼虫の発生は確認されなかったが、巡回調査 (県内148地点) では、1圃場で発生が確認された (図8)。

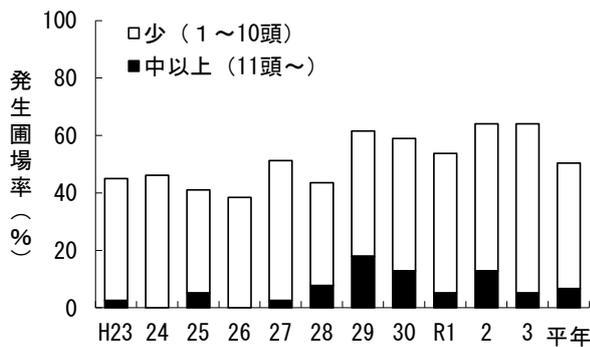


図7 コバネイナゴ発生圃場率の年次推移 (6月中旬、水田畦畔、往復20回振)

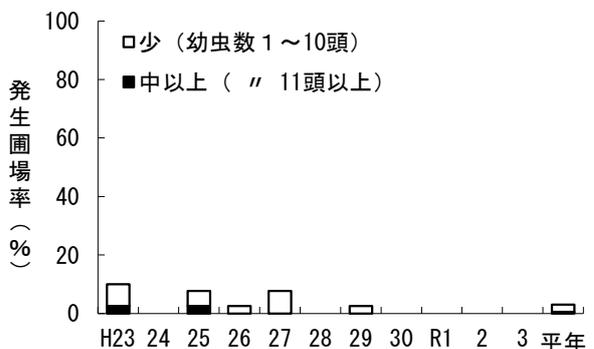


図8 フタオビコヤガ (イネアオムシ) 幼虫発生圃場率の年次推移 (6月中旬、本田、往復20回振)